

令和6年度第1回印西市立印旛歴史民俗資料館運営委員会会議録

1. 開催日時 令和6年7月17日（水） 午後2時00分開会
2. 開催場所 印西市立印旛歴史民俗資料館 学習室
3. 出席者 松原一弘委員、内藤幸一委員、早川博史委員、矢嶋毅之委員、山田俊輔委員
4. 欠席者 なし
5. 事務局 三門宜典教育部長、飯島正義生涯学習課長、遠藤正館長、倉田龍太郎学芸員
6. 傍聴者 なし
7. 次第 (1) 令和6年度歴史民俗資料館事業について

進行 定刻となりましたので、只今より、令和6年度第1回印旛歴史民俗資料館運営委員会を開会させていただきます。

私、運営会議の進行を務めさせていただきます、遠藤でございます。よろしくお願いいたします。

本日の出席委員は5名中5名で、過半数に達しておりますので会議は成立となります。

次に、配布資料の確認をさせていただきます（配布資料名を読み上げ確認）。

また、本会議は、「印西市市民参加条例」第11条第4項及び「同施行規則」第11条の規定に基づき、公開となりますが、傍聴者はございませんのでこのまま進行をさせていただきます。

はじめに、運営委員会の委員の皆様へ委嘱書を交付させていただきます。

別添資料1の名簿の順にお名前をお呼びいたしますので、自席にてご起立の上、お受け取りくださるようお願いします。

※教育部長より、読み上げ・伝達。 介添え 生涯学習課長。

進行 次に、教育部長よりご挨拶を申し上げます。

※教育部長 あいさつ

進行 引き続きまして、お顔とお名前を一致させていただくため、委員の皆様のご紹介をお願いしたいと存じます。なお、恐縮ですが、名簿順に自己紹介方式でお願いします。

※各委員自己紹介を行う。

進行 次に、本日出席させていただいております、職員の紹介をさせていただきます。

なお、自己紹介方式で申し上げます。

※教育部長以下出席職員自己紹介

進行 このほかに再任用職員1名が在籍し、運営にあたってまいります。

進行 引き続きまして、会長・副会長の選出をお願いいたします。

選出に関しては、設置運営規則第16条により、会長・副会長は、「委員の互選」となっておりますが、どなたか立候補またはご推薦いただけますでしょうか。

委員 事務局一任でお願いしたいと思います。

進行 それでは事務局一任というご意見がございましたので、事務局案としてご提案させていただきます。会長に内藤委員をご推薦いたします。また、副会長として、松原委員をご推薦いたします。以上でございます。よろしくご審議を賜りますようお願いいたします。

※各委員より異議なしの発言

進行 ありがとうございます。
それでは、会長に内藤委員、副会長に松原委員が選出されました。
任期は2年間となります。よろしくようお願いいたします。

進行 それでは、新たに就任いただく会長・副会長を代表して、会長の内藤委員より、ごあいさつを賜りたいと存じます。よろしくお祈いします。

※会長あいさつ

進行 ありがとうございます。

進行 教育部長は、このあとほかの公務がございますので、ここで退席させていただきます。

教育部長 それでは皆さまここで失礼させていただきます。 よろしくお祈いいたします。

※教育部長退席

進行 学芸員も、本日の勤務体制により一旦、事務室で執務をさせていただきます。質疑等で必要に応じ対応させていただきます。

学芸員 失礼します。

※学芸員退席

進行 議事に入らせていただきます。
議長は設置運営規則の規定により、会長に議長をお願いします。
会長よろしくお祈いします。

議長 それでは、暫時お手元の次第にそって議事を進めさせていただきます。
はじめに「会議録署名委員」の指名についてですが、議事録署名人の選出につきましては名簿記載順でよろしいかお伺いします。
議事録署名人は、名簿記載順をお願いしており、松原委員よろしいでしょうか。

委員 はい。

議長 ではよろしくお祈いいたします。議事に入ります。
議題の（１）「令和6年度歴史民俗資料館事業について」を議題とします。
事務局より説明をお願いします。

進行 事務局より議題（１）の「令和6年度歴史民俗資料館事業について」を説明いたします。

事務局 ※資料に沿って説明

議長 只今、事務局から説明がございましたが、この内容に関しまして、ご意見ご質疑などがございましたら、お祈いします。

委員 8月ぐらいに資料の燻蒸（くんじょう）を行うということなのですから、これは委託ですか。

事務局 業者委託なのですが、令和5年度に受け入れた資料、民俗行事等のために地元の方に貸し出した獅子舞のお面や仏像を、当館にしまう前に業者の倉庫に持ち込み、燻蒸をしており、8月下旬ごろを予定しております。

委員 関東港業を？

事務局 薬剤の関係で関東港業ということになります。

委員 5の事業協力などで、市内の小学校中学校が博物館を利用するということはやられているのですか。

事務局 本年度の具体的な予定としては入ってはいないのですが、今まで旧印旛村内の小学校で利用が、松原先生がお詳しいとは思いますが。

委員 では私のほうから。前館長とやり取りをしていたのですが、広さ的に大きな学校は受け入れが難しいとのことで、1クラス十何人の小さな学校がいくつかここに訪ねてきて勉強しているということです。私のところも昨年使わせていただきましたし、隣の六合小という学校もこちらで勉強しているというお話です。主に3年生の昔の道具という勉強、そして6年生の歴史学習、その2学年が使わせていただいていると思います。

委員 小学校の方もカリキュラムがいっぱい、なかなか外に出にくいという話はよく聞きます。せっかく資料館があるのであれば、自分たちの地域の歴史を具体的な現物で学ぶ機会を作っていくのであれば、学校との協力でできる事業だと思います。そのあたりを進めていくというのは、

委員 今年度も活用させていただく予定ですし、市内の校長会議などで広めていければと思います。

委員 あと、展示事業で、常設展示と書かれていますが、展示の入れ替えやリニューアルの実施や計画の状況はいかがですか。

事務局 大きなものを具体的に行う予定は今のところはありませんが、開館以来、所蔵資料を少しずつ変えて展示はしていたと思います。企画展示には至らない小規模なものとして、広報の毎月1日号の「タイムスリップ・インザイ」というコラムに前館長が書いた「洗濯」のたらいと洗濯板を、広報記事とともに展示するというはやっています。他の号も検討したいと思いますが、前号の「蚊帳（かや）」については、物の状態が悪く見送りました。そのほか、ロビーにある埴輪資料を他館に貸し出す予定があり、寂しくなるので、パネル設置等、何か考えたいと思っております。

委員 施設が小さいということを言われていましたが、展示の入れ替えや企画展のようなことを、しにくいと思うのですが、工夫して定期的に変える場所をつくることも考えては如何でしょうか。去年の入館者数が794人と報告の一番最後に載っていましたが、入館者数ばかりいうのもなんですが、市の上の方などから見ると、利用者数というのは、如実に評価の基準となるところが多いですから、入館者数とか利用者数というのは、一定程度確保できる形で進めておいたほ

うがよいと思います。いつ行っても同じものしか見られないということだと、なかなか足を運ぶ機会にもなりにくいので、企画展や展示替えなどの工夫も必要かなとは思っています。

事務局 大変参考になるご意見を頂戴しました。6月30日に、先ほど報告した「火おこし体験」の際に若いお母さんお父さんと小学生のお子さんが参加され、火おこしをやったあとに当館をご見学いただき、お母さんから「学校で米づくりをやっているので、展示内容と合致していて、子どもに良い施設ですね」というお褒めの言葉をいただきました。見ていただければ何か感じてくださるものがあり、また良いご評価もいただきました。委員の先生方からいただいたご意見を反映できるような、来館のきっかけとなる方策があるかどうか、ご意見を参考にさせていただきたいと思っています。

議長 ほかに何かございますか。今お話があったように、展示品とリンクしたようなイベントが開けて、道具を実際体験できて、それに付随するイベントが体験できれば、より理解が深まるのではないかというふうに感じました。そういった方向で考えていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局 ありがとうございます。

議長 ほかに何かございますか。

委員 一つよろしいですか。私も唯一の学校関係者ということで、こちらを活用させていただくのですけれども、場合によっては、資料を持って出前事業のような形で学校に逆に訪れていただき、授業をやっていただくということができると、大きな学校でもいろいろな資料を活用できるのかなと思っています。その辺はどうでしょう。

事務局 資料館に来ていただく形ではなく、学校への講師派遣のような形を考えられないか、ということですね。

委員 もしできればなどは思っているのですが。

事務局 検討材料にさせていただければと考えます。ご意見ありがとうございます。

委員 よろしくお願いたします。

委員 民具を持ち出しているかは把握していませんが、考古学の資料を千葉市の埋蔵文化財センターの職員が小学校に行って、需要があれば出前授業をやられているということで、民具なども、稲作りなど小学校でやっているような体験と合わせて、現物を持っていき説明してあげる、触らせてあげるというのは、有効活用としてはいいと思うんですね。民具を用いて出前講座をしているところが近隣の市町村であるかどうかというのが難しいところではありますが、そのあたりは少し情報収集して出前講座をどういう風にやればいいのかをきけば、おそらく可能になるかと。ただ、館長と学芸員の方2名しか実働できる方がいらっしゃらないので、負担が増えるのは危惧するところですが、教育委員会にもいらっしゃる文化財をやる人たちも含めて、可能であれば、みんなまで対応してあげれば、もう少し市民の方にいろいろ還元できるような気はします。

委員 資料館に対する意見ということにならないかもしれませんが、千葉大の先生に千葉県でも非常

に大切というか重要なものがあるんですよというお話を伺って「そういうものですか」という認識なのですが、ずっと館長さん学芸員さんが一生懸命やっけてこられて、魅力をどう発信したらいいかというのは難しいことだな、と思っていたのですが、千葉県全体の中でも印西地方に大切な重要なものがあるんだよという視点を一つ加えていただくと、魅力アップに繋がるんだなあということを感じながらお話を伺いました。何をしてくださいますということではないのですけれども、感想でございます。

委員 今言われた中で、埴輪で下総型というのは、まさに印旛の北側の辺りがおそらく集中地ですね。そこからいろいろな所に広がっていて、遠いところだと川崎市とか、千葉市、市原市にも埴輪は運ばれているので、その意味では、この地域は元々は香取海、常総内海状地域で、水上を使って茨城にもかなり濃厚な関係があるというのは、その研究をしている犬木さん（※大阪大谷大学教授・犬木努氏）という方が本当に一生懸命やられていて、一人一人埴輪を作った人を今探しているような研究をしている。実際に資料に書いてある大木台とか西ノ原という古墳から出土したものを何人で作った、というところまで分かっているのですけれども、細かすぎるけど面白いかもしれないし、広く見てもいろいろな所との交流の中でこの地があるのだということが見えますね。それともう一つ池田さん（※高野山大学大学院・池田敏宏氏）が研究されている瓦塔（がとう）が、ここから八千代にかけて新川の方にはずっとあるんですね。瓦塔など仏教的なものは、限定的にしか入ってこないのですが、ここにはものすごく多いのです。それと同時にたくさん人が集まる開発集落みたいな、仏教的なものをやりながら開発を進めていくというのが八千代までずっとつながっているのです。それなどは印旛の歴史資料館だけではなくて八千代郷土博物館などと連携してやれば。墨書土器なども印西には多いので、県が調査して持っているものなどを集めれば、この辺りは古代にあつては一時期先進的だったりするときがある。ここは古い景観を今も残しつつ、古い先進的なものもあるという点では重要な、もちろんニュータウンのほうも、北のほうも大事ですけども、この印旛の北側の沿岸というのは、昔の風景と昔の生産生活スタイルみたいなものを知れるし、それよりもはるかに古い千年以上前のことも持っているのです。そういうものを皆さんに知っていただけると、結構誇りにはなると思います。

議長 貴重なご意見をありがとうございました。他にないようであれば、これで終了ということになると思いますが、よろしいでしょうか。

※意見なし。議案は了承。

議長 ではこれで、令和6年度の第1回の運営委員会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

進行 会長には、議事進行をお務めいただき大変ありがとうございました。

進行 事務局より、その他ということでご報告申し上げます。

事務局 それでは、わたくし生涯学習課の方から、一つご案内をさせていただきたいと思っております。
※生涯学習課長より企画展のご案内

進行 以上をもちまして、令和6年度第1回印西市立印旛歴史民俗資料館運営委員会を閉会とさせていただきます。委員の皆様には慎重審議を賜り、大変ありがとうございました。

令和6年度第1回印西市立印旛歴史民俗資料館運営委員会会議録は
事実と相違ないことを承認する。

令和6年8月14日

印西市立印旛歴史民俗資料館運営委員会
委員 松原 一弘